

2023年12月9日

第35回 九州・山口スポーツ医・科学研究会 に参加と研究発表をしてきました

参加者：鶴田 崇、南川 智彦院長

【学会参加の概要】

2023年12月9日に、福岡大学 メディカルホールで開催された、第35回 九州・山口スポーツ医・科学研究会にて当院のリハビリテーション科の鶴田 崇（理学療法士）、南川 智彦院長が研究発表をしてきました。本学会は、九州・山口地域でスポーツ整形・リハビリやスポーツ関係に携わっている医師や理学療法士、スポーツトレーナーをはじめとするコメディカルらが参加する研究会です。

【研究発表内容：発表者 鶴田 崇】

今回は、「投球障害肘を呈した投手における野手併用の有無は柔軟性の改善度と経過に差があるか？」というテーマで発表してきました。

野球でボールを投げる時に肘関節に痛みが生じる野球肘を呈した、小中学生の野球部員を対象に研究しました。小中学生の投手は、高校生以上の投手と異なり、投手だけでなく野手を併用している選手が時折居ます。本研究では、投手のみで投手として試合に出場して完全復帰した選手と野手を経て投手として完全復帰した選手の柔軟性の改善度と試合復帰までの日数を調べました。

結果は、野手を経て投手として完全復帰した選手の方が、肩関節と体幹の柔軟性の改善度が有意に高く、完全復帰獲得までの日数も少ない傾向になりました。

当院では、当院の緑川医師（元ソフトバンクホークスの顧問医師）が開発した投球障害に対するスポーツチャートをもとに、全身のメディカルチェックを施し、投球障害肘を患った選手がどのように故障したのか原因を追究してリハビリテーションを開始します。スポーツチャートは患者や家族と医師・リハビリスタッフが共有され、投球禁止期間・段階的投球増強期間・経過観察期間に分けて、個々の機能状態に応じたリハビリテーションを提供し、コンディションケアの方法を指導しています。個々によってチーム環境などは異なりますが、選手にとって何が必要で何が求められているかを一緒に考え、楽しんで完全復帰できるようなリハビリテーションを目指していきたいと思っております。

